

## 二次的自然の保全に向けた他大学との協働プロジェクト —琵琶湖での意見交流会—

一ノ瀬友博研究会 環境情報学部 3年 水野紗也

### 1. 合同合宿の趣旨

2010年10月8日から10日にかけて、全国で造園分野を専攻する学生15名程度が集い(慶應義塾大学、京都大学、東京大学、東京農業大学、淡路景観学校の5大学)、京都大学が研究を進める滋賀県湖西地域(琵琶湖西部)にて合同合宿を実施した。この合同合宿の目的は以下の3つである。

① 昨年のフィールドトリップから見えた課題に対し、団体としてどのようなアクションを起こせるかを考える事

② 学生のネットワークを今後も持続させる為の足掛かりとすること

③ 発表を予定している造園学会ミニフォーラム(11月12~13日)の発表内容を議論する事

これらの目的をふまえ、昨年挙げた、生きもの保全活動のまっとうな評価を得る、実践に学術的知識のサポートを付加する、といった課題に着目し、合同合宿では現地で生きもの保全活動を行う「びわ湖自然環境ネットワーク」という団体と協働して活動、その活動をふまえた議論を行った。

### 2. 合同合宿内容

#### (1) フィールドワーク事前準備

合宿1日目に、合宿の趣旨、フィールドについて、2日目に活動に同行させて頂く団体についての情報共有を全員で行った後、2日目のフィールドワークに向けた琵琶湖・内湖見学を行った。その後、翌日のフィールドワークに向け議論を行った。議論の中で、現在の生きもの保全活動を行っている団体(NPOやNGO)の課題として、①組織を持続的・独立的に運営していくのが難しい、②広報活動があまり行われていない、③生態学的視点で調査し、活動の効果検証を行っている団体が少ない、という大きく分けて3つのものがあり、翌日のフィールドワークの際、調査に同行しながら、ヒアリングや意見交換会を通し、上記3つの視点から団体の活動を考察することとなった。

#### (2) フィールドワーク

琵琶湖沿岸地域で生きもの保全活動を行う団体の調査に同行した。具体項目は、以下の3点である。

① 琵琶湖湖岸のヨシ群落の再生(ヨシヨシ Project)

② 喜撰川における魚道整備

③ 石組みの護岸

この3点の調査に同行した後、団体の方々と学生との間で意見交換会を行い、団体の広報

活動の在り方や活動を生態学的観点からモニタリング調査する事について質問、議論を行った。

### (3) フィールドワークからの学び、成果報告

フィールドワークにおいて、団体の活動についてのヒアリングや調査の様子を見る事により、①組織を持続的・独立的に運営していくのが難しい、②広報活動があまり行われていない、③生態学的視点で調査し、活動の効果検証を行っている団体が少ないという、フィールドワーク以前の段階で挙がっていた課題に対し、各自が考えた事を共有、議論を行った。そして、翌日、これまでの成果として、生きもの保全活動における問題提起とそれに伴う着想、改善に向けた仕組みづくり、我々の今後の実践的な活動についての方向性を、琵琶湖自然環境ネットワークの代表に報告を行った。

### (3) 造園学会ミニフォーラムに向けた議論

今回の合同合宿の目的の1つに学生団体として11月に行われる造園学会ミニフォーラムでの発表・提案内容を議論する事がある。「生きものと人の新たな関係づくり」の為に、学生として何ができるのか、また、今回の合宿で、現地で実際にフィールドワークを行って見つかった課題とそれに対する提案等について議論を行った。そして、ミニフォーラムでの発表・提案に向けて、以下のグループに分かれ、文献調査等の準備を進めていく事を決定した。

#### ① 課題発掘チーム

合宿を受けて見えてきた現在のNPO/NGOを取り巻く環境や組織運営についての課題を調査、それについての提案を行う

#### ② 情報発信チーム

合宿を受けて見えてきたNPO/NGOの広報活動についての課題を調査、それについての提案を行う

#### ③ モニタリングチーム

合宿を受けて見えてきた生きもの保全活動を行うNPO/NGOのモニタリングについての課題を調査、それについての提案を行う

#### ④ 広報チーム

取り組みに興味を持ってもらうための情報発信(twitter、facebook等)

まず11月の造園学会ミニフォーラムを成功させ、そして、今後も、生きもの保全に対し学生として出来る事を考え、継続的に活動を行っていきたいと考えている。